

北九州ESDアクションプラン
2021～2025

素案

2021年6月
北九州ESD協議会
(RCE北九州)

～ 目 次 ～

1	はじめに	・・・ 2
2	取り巻く状況の変化	・・・ 3
3	アクションプランの策定にあたって	・・・ 4
4	これまでの成果と課題	
	(1)成果	・・・ 5
	(2)課題	・・・ 8
5	目指す北九州の姿	・・・ 11
6	北九州ESDの将来ビジョン	・・・ 13
7	北九州方式ESDとは	・・・ 14
8	基本的事項	・・・ 14
	(1)主体 (2)対象地域 (3)対象分野 (4)計画期間	
9	アクションプランの方向性	・・・ 15
10	重点的に取り組む事項	
	(1)会員による自主的な取り組みの促進	・・・ 17
	(2)ステークホルダー同士の連携・地域外との交流	・・・ 18
	(3)次世代の育成	・・・ 19
	(4)協議会の推進体制と活動拠点のあり方	・・・ 20
11	成果指標および活動指標	・・・ 21

1 はじめに

「持続可能な開発のための教育（ESD:Education for Sustainable Development）」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会におけるさまざまな問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

2015年に国連総会は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択しました。その中で、人類が持続的かつレジリエント（強靱）な発展に移行するため、経済・社会・環境の三側面を調和させるSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）が示されています。普遍的で変革的かつ包括的なSDGsは、人類にとって解決すべき重要な課題です。

上述のさまざまな問題は相互に複雑かつ密接につながり、地球的な規模で生じているものであって、一部の取り組みだけで解決することは不可能です。将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発（持続可能な開発）を行う社会を実現するためには、すべての人が、人と人、人と社会、そして人と自然とのつながりを理解しようと努め、上記に掲げたさまざまな問題を解決するためにはどのような取り組みが必要かを自ら考えるような視点を身に付け、行動を起こすことが必要です。そのような観点から、持続可能な開発のための「教育」が重視されてきたところです。

北九州市は、1901年の官営八幡製鐵所の創業以来、日本の四大工業地帯の一つとして国の経済成長に大きく貢献してきました。しかしながら、1960年代から1970年代に半ばにかけての急激な経済発展の過程で、深刻な公害に見舞われました。このような状況の中で最初に声をあげたのは、家族の健康と地域の環境を心配する女性たちでした。そして、この市民運動が市民・企業・大学・行政の協働へと発展し、一体となって公害を克服した誇るべき歴史があります。そしてこれがまさに“北九州ESD”の原点です。

このようにさまざまなステークホルダーとの協働が求められるなか、2006年に北九州ESD協議会は発足し、RCE（Regional Centre of Expertise）に認定されました。本協議会は“北九州ESD”の原点のもと、これまで活動を積み重ねてきた人々に敬意を表し、今後も市民主導の取り組みを継承するとともに、現代社会に応じた取り組みへと進化した北九州方式の活動を目指します。そのためには、これまで丁寧まいてきた種を発芽させ、深く広く根を張り、美しい花を咲かせるべく、これからさらに発展させていく必要があります。

ウィズコロナ、アフターコロナにおける持続可能な社会の在り方が問われているなかで、持続可能な社会づくりのためには、一人ひとりの自らの行動を変革し、社会に働きかけていく必要があります。ESDの重要性はより一層高まりつつあります。ESD活動が北九州地域に広がり、あらゆる世代の全市民によるESD活動の実践が、北九州地域の新しい未来を拓き、より良い未来を築きます。そして、この行動が、まちを変え、日本を変え、世界を変え、そして未来をつくるのです。本協議会は、持続可能な社会づくりを行うESDモデルとしてリーダーシップを発揮し、世界の持続可能な社会、そして持続可能な地球の実現に貢献していきます。

2 取り巻く状況の変化

(1) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標SDGsは、持続可能な社会を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。2015年のSDGs採択以来、世界規模で、政府、ビジネス、ファイナンス、市民社会、消費者、地域の住民やNPO、教育機関、研究機関、地方自治体、議会といったさまざまなステークホルダーが行動を起こし、SDGs達成に向けた多大な努力が行われ、取り組みが進展しています。

その中でも、「持続可能な社会の創り手」を育成するという観点から、ESDは、SDG4「すべての人々に包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成において重要な役割を果たすとともに、持続可能な社会の創り手として求められる「学びに向かう力、人間性等」を育むことにより、地域や世界の諸課題を自分ごととして考え課題解決を図る人材の育成に寄与し、SDGsの17全てのゴールの達成の基盤を作るという極めて重要な役割を担っています。

(2) 「持続可能な開発のための教育：SDGsの達成に向けて（ESD for 2030）」の採択

2015年以降のESD実施枠組みである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」は、世界で2,600万人がESDカリキュラムを学び、200万人の教育者がESD研修を受け、ESDの推進が大きく前進しました。

その後継として、2019年第74回国連総会で採択された「持続可能な開発のための教育：SDGsの達成に向けて（ESD for 2030）」では、ESDが質の高い教育に関するSDGsに必要不可欠な要素であり、その他の全てのSDGsの成功への鍵として、ESDは、SDGs達成に不可欠な実施手段であることが明記されています。

(3) 本市および本協議会における状況について

2015年国連サミットでSDGsが採択された後、北九州市では、2017年の「ジャパンSDGs特別賞」の受賞を皮切りに、2018年4月にOCEDよりアジアで初めて「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定、6月には国より「SDGs未来都市」（全国29自治体）及び「自治体SDGsモデル事業（全国10事業）」に選ばれました。

一方、2006年に設立した本協議会は、北九州ESDアクションプラン2015～2019（以下、「前アクションプラン」という。）策定後、拠点を「まなびとESDステーション」に移し、市民・NPO、企業、学校等と協働の取り組みを拡大して、5つのプロジェクトとさまざまなステークホルダーによる運営委員会を発足させ、各会員がそれぞれの分野において5年間活動を広げてきました。事務局体制も2017年より専属コーディネーターを設置し、会員と地域などをつなぐ取り組みを実施してきました。

さまざまな事業を会員等とともに実施した結果、2017年には本協議会は「地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰」を受賞しました。また、会員においても、それぞれにおい

て活動は発展していき、「まなびとESDステーション」の位置する魚町商店街が、本協議会との協働のもと、ジャパンSDGsアワード内閣総理大臣賞を受賞し、特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲインが北九州SDGs未来都市アワードでSDGs大賞を受賞するなど、その他の会員の活動も広がりを見せています。

これらの本協議会の活動が、北九州市の「持続可能な社会づくり」の貢献の一つとなって、「SDGs未来都市」へ選定されたことは大きな成果と思われま

(4) 新型コロナウイルス感染症の世界的流行がもたらす社会の変化

2020年、新型コロナウイルス感染症は、地球規模で私達の生活に影響を与えました。人の移動や経済が停滞したことにより、社会課題が一層顕著化しました。また、ICTの活用により地域・国を越えた交流が一気に進みました。

新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う地球環境課題を取り巻く状況において、グローバルな考えとローカルな活動（think globally, act locally）の視点で、ESDを推進していく上で必要なコト・モノを再確認することが求められています。

3 アクションプランの策定にあたって

国連で採択された「ESD for 2030」を受け、2020年度中に持続可能な開発のための教育（ESD）国内実施計画が改定されました。

また、本協議会では多岐にわたるESD活動を展開していますが、今後のESDとSDGsとの推進などさまざまな課題を抱えており、それらを解決のため、2019年より本協議会の会員への3回のアンケート実施、3回のワークショップ「ESDカフェ」、本協議会の運営委員や有識者から成る「北九州ESD検討会」3回、2回の会員によるオンライントークセッションおよびパブリックコメントなどにて、前アクションプランに基づいて活動を進めてきた成果や課題を振り返り、意見交換を進めてまいりました。

これらの国内外の計画を基に、本協議会の会員の意見を反映させた結果、「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を策定しました。

4 これまでの成果と課題

前アクションプランにおいては、重点的に取り組む事項を共通事項である「普及・啓発・発信」、「ステークホルダー別取り組み」および「推進体制・事務局」を定め、事業を実施してきました。それに基づき、その成果と課題を振り返りました。

(1) 重点的取り組み事項とその成果

- ① (共通事項) 普及・啓発・発信
 - ・ 地域への ESD 普及活動を地道に継続
 - ・ ESD 活動の見える化が進んだ
 - ・ 韓国との相互交流
- ② ステークホルダー別取り組み
 - 【地域・ネットワークづくり】
 - ・ 市民センター等を中心に、活動団体を広げ、ESD 的視点が浸透
 - 【多様な教育の場】
 - ・ 複数の大学と会員が連携して学ぶ体制
 - ・ 国際的な発表の機会の提供
 - 【企業】
 - ・ SDGs 研修実施による人材育成
 - ・ 北九州 SDGs 未来都市アワードで優良事例発信
 - 【行政機関】
 - ・ 行政職員や市民センター館長等の ESD・SDGs 研修
- ③ 推進体制・事務局
 - ・ 運営委員会の発足、5つのプロジェクトを推進

① (共通事項) 普及・啓発・発信

前アクションプランの普及・啓発・発信においては、重点的に取り組む小事項全てにおいて 13 の事業を行いました。

また、プランで規定されている指標の達成状況において、6項目中4項目「ESD に関する市民センターにおける講座や行事数」「ESD 活動を対象とする表彰制度の創設」「情報発信」「協議会等と国内外の ESD 活動団体 (RCE) との交流数」について目標が達成されました。

- ・ 市民センター等における出前講座は、今まで会員が行ってきた ESD 活動の普及を地域へ進めていくもので、地道な活動ではありますが直接学ぶ機会となり、効果は大きく、誰でも、学び合える場づくりが促進されました。
- ・ 表彰制度として「北九州 SDGs 未来都市アワード表彰」の創設は、市民・NPO 等の

既存のSDGs・ESD活動を掘り起こし、「見える化」することで、持続可能な社会づくりへとつながっていくものと思われます。

- ・ 韓国 RCE との相互交流は、10 年以上にわたって実施しているもので、RCE 北九州の特徴的な事業の一つでもあり、RCE インジェやトンヨンなどと継続的に交流を重ねており、他の RCE から注目されています。

② ステークホルダー別取り組み

【地域・ネットワークづくり】

地域・ネットワークづくりにおいては、2事業を行い、指標の達成状況において、3項目中2項目「ESD コーディネーター研修の年間実施件数及び受講者数」「ESD コーディネーター研修受講者による年間活動件数」について目標が達成されました。また、会員によるアンケート結果においても地域コミュニティは他のステークホルダーより ESD が浸透してきており、今までも行っていた身近な活動に ESD の視点がプラスできることに気が付いた人たちが広がっていると推測できます。

- ・ 「市民センター等 ESD 推進事業推進」事業は、のべ 8,000 人以上の市民へ実施され、ESD の視点を踏まえた活動が普及してきました。また、「おしゃべり工房〜ざっくばらんに ESD〜」事業により、市民センターを拠点とした地域の多様なステークホルダーと団体がマッチングし、連携が進んできました。
- ・ ESD コーディネーター育成事業は、市民センター館長研修から、受講対象者を広げ、内容も地域の ESD 普及の鍵となるコーディネーター育成が進み、より深い学びが浸透してきています。

【多様な教育の場】

多様な教育の場においては、4事業を行い、指標の達成状況において、2項目中1項目「ESD 実践の手引き」等を活動した教員等への研修会の実施」について、目標が達成されました。

- ・ 「まなびと講座」は、市内の 10 大学が連携し、多くの大学生に対して会員が講師となって ESD について講義するというもので、のべ 15 回開催されました。学生および講師にとっての大きな学びのきっかけとなり、この事業を通じて、本協議会と大学との連携が深まり、現在のプロジェクト活動でも活躍しているサブコーディネーター活動へとつながっています。
- ・ 日中韓環境教育ネットワーク (TEEN) などの国際会議における発表は、学生を始めとする参加者への大きな経験と学びとなり、国内外から多くの参加を得て、RCE 北九州としても国際的な活動の場を広げ、国際的な視点で ESD を考える機会となりました。

【企業】

企業においては、2事業を行い、指標の達成状況において、3項目中2項目「ESD 活動を対象とする表彰制度の創設及び実施件数 (企業部門の設置)」「企業向け ESD 研修の

実施件数」について、目標が達成されました。

- 北九州市内の環境関連企業を中心に研修を実施しました。近年、企業においてSDGsの推進が進んでいることもあり、のべ800人以上の方が参加され、参加者は年々増加傾向にあります。
- 表彰制度として「北九州SDGsアワード表彰」実施において、企業部門を設置し、北九州市内の優良事例の企業を表彰し、企業のSDGs・ESDへの理解を深め、行動を促してきました。

【行政】

ステークホルダー別の取り組みとして行政においては、1事業を行い、指標の達成状況において、「行政機関向けESD研修の実施件数」について、目標が達成されました。

- 北九州市と共催して、ESD人材育成として行政職員へのESD・SDGs研修を実施してきました。北九州市は、2018年に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定され、その後、「北九州市SDGs未来都市計画」を策定し、環境・経済・社会を中心とした三側面に関するあらゆる施策にSDGs達成に向けた視点を盛り込み実施しており、本協議会としても北九州市と協働してESD・SDGsの視点を持ったまちづくりに取り組んできました。

③ 推進体制・事務局

推進体制・事務局の指標の達成状況において、2項目中2項目「推進体制の構築」「事務局体制の構築」について、目標が達成されました。

- 前プラン策定後、本協議会は拠点を「まなびとESDステーション」に移し、市民・NPO、企業、学校等と協働の取り組みを拡大してきました。また、推進体制についても、5つのプロジェクトとさまざまなステークホルダーたちによる運営委員会を発足させ、各会員がそれぞれの分野において5年間活動を広げてきました。
- 事務局体制も2017年より専属コーディネーターを設置し、会員と地域などをつなぐ取り組みを実施してきました。その結果、2017年には本協議会は「地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰」を受賞し、会員においても、それぞれにおいて活動は発展していき、本協議会の活動が、北九州市の「持続可能な社会づくり」の貢献の一つとなって、「SDGs未来都市」へ選定されたことは大きな成果と思われます。
- 本協議会はESDの地域拠点であるRCEという役割も持っており、全国RCE実務者会議の北九州での開催や、韓国のRCEとの交流も実施してきました。さらに、「地域ESD活動推進拠点」としても、九州地方活動支援センターと協働し、ESD推進のための実践拠点支援事業を実施し、協働・連携の環を広げてきました。

(2)課題

- ① (共通事項) 普及・啓発・発信
 - ・会員のESD理解、相互交流
 - ・周知方法・周知内容の改善
 - ・ESDとSDGsの関係性を理解し、一緒に広げていく
- ② ステークホルダー別取り組み
 - 【地域・ネットワークづくり】
 - ・地域拠点づくりの強化
 - ・地域での次世代育成
 - 【多様な教育の場】
 - ・教育機関との連携強化
 - ・ユースと教育機関や他のステークホルダーとの連携・協働
 - 【企業】
 - ・企業と他のステークホルダーのつながりの構築
 - ・若い世代が企業を支え、企業が若い世代の成長と活躍の場を提供する仕組み
 - 【行政機関】
 - ・協議会が行政職員の人材育成にどのように関わるか検討が必要
- ③ 推進体制・事務局
 - ・市民や会員の主体的な活動を促進
 - ・会員間のネットワークづくり
 - ・プロジェクトから新たな枠組み検討

① (共通事項) 普及・啓発・発信

- ・ 本協議会会員へのアンケートやESDカフェの参加者からは、ESDの理解や学びの機会、ESDの視点の追加を感じていないという意見がありました。また、他の会員がどのような活動しているかわからず、十分な交流ができずに協働・連携が進んでいないという意見もあり、今後は会員同士の情報共有及び相互交流を進める必要があります。
- ・ 会員の意見から、ESDの理解・浸透が進んでいると感じられておらず、その理由においては「ESDが難しい、分かりにくい」「情報発信・更新が十分ではなかった」「他がどのようなESD活動しているかわからない」など問題点が挙げられています。「ESDという言葉だけの周知でなく、目的・取り組みなどの周知がもっとなされるべき」という意見もあるため、今後は周知・内容の方法の改善の検討が必要です。
- ・ 2015年以降SDGsの普及に伴い、ESDの活動は広がりを見せていますが、市民アンケートの結果を見ると、SDGsの認知度が上昇する一方で、ESDの認知度は変わらない状況にあります。会員からは、ESDとSDGsの理解を深めることが必要であり、一緒に広げていくことを求められています。

② ステークホルダー別取り組み

【地域・ネットワークづくり】

- 地域コミュニティでは、ESDの視点が広がっているのではないかと考えていますが、さらに広げるには市民センター等を拠点として、周りを巻き込んで広がっていく必要があると考えられます。
- 地域において、高齢化が進んでおり、若い世代との意見交換など交流が求められています。学校、保護者、市民センターなどと連携した次世代の育成が望まれています。

【多様な教育の場】

- 前アクションプラン実施期間では、小・中学校などの教育機関と連携した本協議会の事業化に至りませんでした。今後は教育機関と連携を強化し、協働してSDGsの視点を踏まえた推進が必要であると考えています。
- 今まで得た成果であるユースの活動を、他の高校・大学、その他のさまざまなステークホルダーと連携・協働し、新たなパートナーシップを形成して、次世代育成が進展していきます。

【企業】

- 会員の意見でも、企業において「SDGsの土壌は整いつつある」と考えられており、SDGsで企業が動き始めているので、SDGsとESDの位置づけを明確にして、ESD活動へ企業を巻き込み、他のステークホルダーとの連携を図ります。
- 北九州市の持続可能な社会づくりを考えた場合、特に若い世代と企業の連携が非常に大切と考えます。今後は、若い世代が企業を支え、また企業が若い世代の成長と活躍の場を提供する仕組みづくりを検討することが必要です。

【行政】

- 会員の意見で、「行政組織でのESD実践不足」や「行政職員へのESD・SDGsの意味・背景の研修が必要」という声がありました。今後本協議会が、行政職員の人材育成についてどのように関わっていくか検討し、北九州市とより協働を深め、ESD・SDGsの視点をもったまちづくりに貢献していきます。

③ 推進体制・事務局

- 会員から、「会員間のネットワーク作りが必要」、「会員間の活動をよく知ることが大前提」などの意見もあり、会員とのコミュニケーションがまだ十分でなかったと考えられています。今後は、市民や各会員の主体的な活動を一層推進するとともに、会員間のネットワークづくりを強化していく必要があります。
- 現体制では、プロジェクトの枠組みにとらわれて、拡がりに限界があるとの意見も見られました。今後は、本協議会の新たな枠組みを検討し、会員とのパートナーシップを深める必要があります。
- 本協議会はESDの地域拠点であるRCEという役割も持っており、他の国内外のRCEとの交流も実施してきました。さらに、「地域ESD活動推進拠点」としても、九州地方活動支援センターと協働し、ESD推進のための実践拠点支援事業を実施し、協働・連携の環を広げてきました。

今後も、他の RCE や ESD 活動推進拠点との情報共有を深め、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいきます。

- 2020年の新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、拠点である「まなびと ESD ステーション」の利用者は大幅に減少し、オンラインによる交流などの工夫が見られました。会員からも、今後、拠点の意義が変化しつつあるなかで、持続可能な拠点のあり方の検討が望まれています。

5 目指す北九州の姿

福岡県の第2期福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略（2020年3月）においては、「SDGsの取り組みは、少子高齢化の課題に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みやすい環境を確保して、将来にわたって活力のある社会を維持することを目的とする地方創生につながるものです。したがって、第2期地方創生総合戦略においては、SDGsの考え方を踏まえた施策の推進に取り組んでいきます。」と明記されています。

【SDGs 未来都市北九州の未来戦略（ビジョン）】

北九州市では、北九州市SDGs未来都市計画にある2030年のあるべき姿として

「『真の豊かさ』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリーン成長都市』」と掲げられています。

2020年度に改定した北九州市SDGs未来都市計画第2版では、社会環境の大きな変化に対応する経済、社会、環境の両立で北九州市のSDGs達成をより強固なものとしていくと明記されています。

人づくりの観点からは、SDGsを踏まえた教育の実践による「未来の人材が育つまち」として、「ESDの視点からあらゆる世代において学ぶ機会を容易に得ることができ、生涯にわたり社会で活躍することで、地域・企業等の活性化を促進する」として、「未来の人材が育つまち」を基本的な考え方として具体的な取り組みを進めていくものです。

ESDで目指すまちの姿

【ESDとは】

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といったさまざまな問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。（文部科学省ホームページより）

すなわち、ESDとは「より良い未来のために自分自身と社会を変えていく『学び』」です。

ESDを通して、地球規模の視点を持ちながら、北九州地域の良い現在と未来に向けて、「気付く」「学ぶ」「考える」「行動する」ことができる人材を多く育みます。そしてこれらの人々が「つながる」「広がる」「共有する」ことにより、相乗効果で高め合い、学び合い、ESDを浸透させます。

そのために、まずは皆にとってより分かりやすい「北九州方式ESD」を通じて、個人や団体それぞれが、考えて行動し、お互いにつながり、世界に広がって、持続可能な社会、そして持続可能な地球に向けて、一歩を進めるまちの実現を目指します。

各ステークホルダーの役割

持続可能な社会やまちづくりの必要性について、さまざまなステークホルダーがそれぞれの役割を学び、理解し、行動していきます。また、ステークホルダーはそれぞれに、つながり、相互に高め合い、深め合う学びあいを継続的に進めていきます。

【市民・NPO】

一人ひとりの日常のあらゆる活動が、持続可能な社会づくりの達成につながることを理解し、誰もがいきいきと活躍できる地域づくりを目指します。

【企業】

企業の本来の業務を持続可能な社会づくりと調和させ、特に次世代と企業が共に学び成長していきます。

【教育機関】

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、より良い社会と人生を築く次世代を育成していきます。

【行政】

市民へ活動の場と機会を提供し、協働してESD・SDGsの視点を持ったまちづくりを目指します。

6 北九州ESDの将来ビジョン

北九州ESD 2021～2025スローガン

持続可能な地球のため「学び」「考え」「行動する」北九州ESD

ESDは、より良い未来のために自分自身と社会を変えていく「学び」です。それを踏まえて、本アクションプランの取り組みにより、下記の「5年後の北九州地域のあるべき姿」を目指します。

- (1) 私たちは、持続可能な地球について、過去から現在を「学び」、未来を「考え」る。
- (2) 私たちは、北九州RCEとして国内外の多様な個人・団体・組織等が結びつき、相互に高め合い、深め合う学び合いを継続的に行う。
- (3) 私たちは、北九州地域の多くの個人・団体・組織等がつながって、持続可能な地球の実現を目指した自主的・積極的な取り組みを共に行う。
- (4) 私たちは、持続可能な地球の必要性について、多くの個人・団体・組織等が理解し、それぞれの役割をふまえて「行動する」。

7 北九州方式ESDとは

ESDが目指す「持続可能な社会」づくりは、環境保全と経済発展の両立だけではなく、福祉、文化・伝統、教育、コミュニティの再生といったさまざまな社会的な課題の解決と深く関係しています。そのため、ESDの概念は、抽象的になりがちで、一般に理解が広がりにくいという課題があります。

そこで「北九州方式ESD」では、「青空がほしい」と女性たちが声をあげ、市民の学び・行動をきっかけに産学官民が一体となって公害を克服した歴史を持つ北九州の「環境」を出発点として、福祉、文化、教育、経済等のあらゆる分野にわたるESDを理解し、身近な生活や地域の中から課題解決に取り組むことでESDの普及を図ります。また、従来から北九州ESDの特長である『市民主体』の取り組みにより、自主的・継続的なESD活動を実施していきます。

① 環境

「環境未来都市・北九州市」の特長である「環境」を出発点に、身近な事例からESDの理解を進めることで、普及を促進します。

② 市民主体

市民の自主的な学び・行動をきっかけに産学官民が一体となって公害を克服したESDの歴史を基盤に、「①市民一人ひとりが」「②自主的に」「③協働で」ESDに取り組むことにより、真の持続可能な社会を目指します。

8 基本的事項

(1)主体

本アクションプランは、国連大学が認定するRCEの推進母体である本協議会を中心に、産学官民からなる本協議会加盟団体をはじめ、さまざまな組織・団体・個人（北九州地域に住む人）が主体的に取り組むとともに、それぞれの立場に応じた役割をふまえ、協働で実施します。

(2)対象地域

本アクションプランは、北九州市を中心に、周辺圏域なども含め、広域における関連組織や団体などとも連携しながら、ESDの推進を図ります。

(3)対象分野

本アクションプランは、環境保全をはじめ、持続可能な社会づくりにつながる福祉、国際理解、人権などあらゆる分野の活動を対象とします。

(4)計画期間

本アクションプランは、2021～2025年度の5年間とします。ただし、さまざまな社会情勢の変化や、推進体制の見直し・構築などに柔軟かつ着実に対応していくため、必要に応じて期間内であっても適宜見直しを行います。

9 アクションプランの方向性

ウィズコロナの時代にあって新たなチャレンジにも取り組みながら、人と人、人と社会の関わりの中でESDを推進し、SDGsの達成を目指し活動します。

特に、将来の北九州を担う次世代の育成や、SDGsの活動の活発化が予想される企業との連携に取り組みます。

- これまでの「北九州方式ESD」を継続
- ESDの理解や周知と、SDGs17の目標を意識した取り組み
- 自立し、かつ相互につながる学びの環の広がり
- 誰一人取り残さない学び、誰もが活躍しやすい環境づくり

2020年、新型コロナウイルス感染症は、地球規模で私達の生活に影響を与えました。人の移動や経済が停滞したことにより、社会課題が一層顕著化しました。また、ICTの活用により地域・国を越えた交流が一気に進みました。

新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う地球環境課題を取り巻く状況において、グローバルな考えとローカルな活動（think globally, act locally）の視点で、ESDを推進していく上で必要なコト・モノを再確認することが求められています。

新型コロナウイルスと共にある社会において、「持続可能な社会の実現」のために、一人ひとりが地域課題や地球規模の視点から、現在と将来の社会的、経済的、環境的な影響を考慮しつつ、自らの行動がとることができる人材の育成を図ります。

特に、将来の北九州を担う次世代が、活発にSDGsに取り組むと予想される地域・団体・企業等と協働するなど次世代の育成に力をいれて、北九州の未来のまちづくりに取り組んでいきます。

○これまでの「北九州方式ESD」を継続

2006年に寺坂カタ卫代表、三隅佳子副代表を中心として設立された本協議会は、北九州市の特長である「環境」を出発点に身近な事例から課題解決に取り組むこと、また「市民主体」で「①市民一人ひとりが」「②自主的に」「③協働で」ESDに取り組むことにより、「北九州方式ESD」を構築してきました。今後も「北九州方式ESD」を継続し、持続可能な社会の実現を目指します。

○ESDの理解や周知と、SDGs17の目標を意識した取り組み

2019年国連総会で採択された「ESD for 2030」で定義された通り、ESDは質の高い教育に関するSDGsに必要不可欠な要素であり、その他の全てのSDGsの成功への鍵として、SDGs達成に不可欠な実施手段です。ESDは、持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGsの全てのゴール実現に寄与します。本協議会は、ESDとSDGsを共に分かりやすく発信し、SDGsクラブ等と連携して、ESDをさらに強化し、SDGsの実現に向けて、より公平で持続可能な社会の構築を目指します。

○自立し、かつ相互につながる学びの環の広がり

持続可能な社会の実現ため、自主的・積極的に社会参画できる市民を目指して、行動変容につながる学びの機会を多く創出します。また、「みんなで広げよう つながろう」として、多様な組織・団体・個人等が結びつき、相乗効果で高め合い、学び合うことを図ります。

○誰一人取り残さない学び、誰もが活躍しやすい環境づくり

誰でも、どの世代においても切れ目なく、人権・ジェンダー平等・環境・健康・福祉・貧困などのSDGs17の目標に対応するあらゆる分野において横断的に、資質や能力が向上し、発達するような取り組みを促進し、社会を変革する力を育みます。また、誰もがその資質・能力を発揮できるような環境づくりを目指します。

10 重点的に取り組む事項

1 会員による自主的な取り組みの促進

今までの5年間の各プロジェクト活動を踏まえ、各団体による自主的な取り組みをより広げて、発展させるための支援を行います。

2 ステークホルダー同士の連携・地域外との交流

会員同士の情報共有することで、交流の機会の活性化を図ります。併せて、協議会内外へのESD・SDGsの普及啓発を推進します。また、市外及び国外の団体ともこれまで以上に積極的な交流を図り、連携を促進します。その結果、新たな掛け合わせの場を創出し、多様な連携から重層的な連携を図ります。

3 次世代の育成

市民・NPO・地域・企業・教育機関等のさまざまなステークホルダーとユースをつなぎ、また多世代の交流を進め、主体的に活動するユースを育成していきます。

4 協議会の推進体制と活動拠点のあり方

これまでの活動の成果と課題を踏まえ、会員が主体となる、次のステージとしての協議会の推進体制と活動拠点を進めていきます。

1 会員による自主的な取り組みの促進

今までの各プロジェクト活動をさらに発展させ、会員による新たな活動を促進するため、会員が自ら取り組みたい課題をあげ、そのための活動団体（チーム）を新たに結成します。また、賛同する仲間を協議会の会員から集い、会員参加型のチーム体制として、協議会での会員同士の連携と協働を深めていきます。なお、これまでのプロジェクトについても、一部継続し、会員相互が連携し、新しい取り組みを生み出します。

各チームは、人権・ジェンダー平等・環境・健康・福祉・貧困などの分野の活動を進め、SDGs17のどのゴールに対応するかを示し、実施主体が責任をもって取り組みます。

以下は期待されるそれぞれのチーム・プロジェクトの活動を例示しています。これまで実績や継続性を基に、協議会として重点的に取り組みを決定し、推進していきます。

➤ 地域・コミュニティでの多様な学びの場づくり:市民センター等推進

これまで地域の草の根活動として活動してきたイベントや勉強会などをより活発化し、既存のネットワークやチーム等とマッチング・連携しながら、地域で活躍する人を広げ、活動がESD・SDGsそのものと実感できるように、全市的に推進していきます。

➤ 継続的な国際交流

これまでRCE北九州として培った交流の実績をもとに、今後は新たな世代・地域・団体などと連携して、これまで以上に広がりのある交流を継続していきます。

➤ 地域の歴史など学び、地域への愛着や誇りを育む

地域の体験者を掘り起こし、そのバトンを受け継ぎ、語れる「私」を目指し、勉強会や地域探索を行い、次の語り部や活動者を育成して、地域への愛着や誇りを受け継いでいきます。

➤ **北九州の自然と生き物たちを守りゆく**

北九州の自然や生き物たちを次の世代へ引き継ぐため、温暖化対策やリサイクルの啓発を意識した地域や海岸の清掃活動や、絶滅危惧種などの生き物の保護活動を通じ、自然豊かな住みやすいまちを守っていきます。

2 ステークホルダー同士の連携・地域外との交流

ESD 推進のため、ステークホルダーの連携・地域外に全体で取り組んでいきます。

これまでの成果と課題でもあったように、多くの会員が他の会員がどのような活動をしているか分からず、十分な交流ができずに協働・連携が進んでいないと感じていることから、交流会やさまざまな媒体を活用した会員同士の情報共有を進め、交流の活発化を推進し、異なる視点の獲得を図ります。

併せて、協議会内外の市民へ ESD・SDGs の理解を深めるため、情報発信の方法を検討し、協議会全体として普及啓発に進めます。

また、RCE 北九州、地域 ESD 活動推進拠点として、国内外の他の RCE や他の ESD 活動支援センターとも連携を強化してきます。

その結果、新しい世代・地域・団体等との連携が生まれ、これまでの多様な連携から重層的な連携へと発展させていきます。

➤ **会員の情報を共有、ネットワークづくり強化**

年1回発表会、会員の情報が分かり合えるプロフィール集などの作成、会員のイベントなどへ簡単に参加意向を伝えるシステム構築、気軽に会員同士が語り合える情報交流会など、プラットフォームの核として、会員間の相互交流の場づくりを行います。

➤ **北九州市民ブランドとなる SDGs 未来都市アワードの継続・発展**

表彰制度「北九州 SDGs 未来都市アワード」表彰制度により、既存の SDGs・ESD 活動が掘り起こされ、「見える化」が進んでいます。その効果を、会員活動の発展及び会員外の団体への啓発に発展し、それぞれの団体が協働して、フォローし合って、重層的な連携へと発展させていきます。

➤ **あらゆる世代の人たちの学びの機会となる出前講座**

これまでの成果と課題でもあったように、出前講座は会員がESD活動を地域へ普及するうえで、地道ですが効果的な活動と考えられます。出前講座は、学びの面白さの入口であり、相手に合わせてESDをつなげることが重要と考えられます。今後は世代を超えて学び合う場づくりとして、市民センター以外にも、幼稚園・保育園や小中学校の家庭教育学級などにも普及し、ICTなども活用して、より多くの市民と学びの機会を共有していきます。

➤ **協議会内外への普及啓発**

これまでの成果と課題にあったように、ESD が分かりにくく、情報発信が十分でなかったため、ESD の理解・浸透が進んでいないと考えられていました。今後はあらゆる世代へ届くようなホームページ・紙媒体に加えて、SNS やその他を検討するなど情報発信の仕組みや分かりやすい表現を検討し、SDGs を普及するとともに ESD に関する理解を深めていきます。

➤ 国内外の RCE や他の地域 ESD 活動推進拠点との相互交流・学び合い

本協議会は、ESD の地域拠点として RCE であり、地域 ESD 活動推進拠点としての役割ももっているため、会員が国内外の他の RCE や他の ESD 活動支援センターと情報共有や交流する機会を設け、協働して事業を進めるなど連携を強化してきます。

3 次世代の育成

国連の「ESD for 2030」及び日本国内の「持続可能な開発のための教育（ESD）国内実施計画」でも、「次世代の育成」は重点項目として挙げられており、ESD 推進において優先して進めていく事項です。本協議会は、年齢にこだわることなく、積極的に学び、活動して、次世代を創り上げていく人材の育成を協議会全体で図ります。

そのため、市民・NPO・地域・企業・教育機関などのさまざまなステークホルダーや多世代の交流を進めていきます。特に活発に SDGs に取り組むと予想される企業や団体との連携を進め、北九州の持続可能な社会づくりの主役となる人材育成を目指します。

➤ ESD・SDGs に取り組む意味・意義を考えるプログラム、教材開発

若い世代の興味を引き、受け入れられやすいよう、表現・デザインなど工夫して、ESD・SDGs を分かりやすく説明する ICT を活用した新しいプログラムや教材を教育機関や企業などと協働して開発を図ります。また、開発した教材等を携えて、地域や活動者と共に、教育機関との連携を図り、次世代へ ESD を深めていきます。

➤ 国内・海外での会議等に積極的に参加し、発表などを通して交流を図る

自ら課題を見つけ、積極的に国内外で活動したいというグローバル人材を育成するため、RCE 北九州や地域 ESD 活動推進拠点として参加する会議や事業への参加や発表を促し、サポートしていきます。

➤ 北九州の ESD の原点から現在の SDGs までを伝え、学びあう場づくり

「青空がほしい」運動や各地域での歴史など、忘れてはいけない歴史が北九州に数々存在します。今後語られ続けるため、まずは大人が何を伝えたいか、何ができるかを考え、次世代の学びたいことを引き出し、共に学ぶ勉強会などを実施し、多世代の学びの場を構築していきます。

➤ 子育て世代との協働による次世代育成

未就学児や小中学校の児童・生徒の親などの子育て世代は、次世代へ最も影響力を与える世代です。これまで協議会として連携が少なかった子育て世代と、協議会会員の団体や企業、学生などとの連携を進めてイベントや勉強会などを推進していきます。また親、子、孫へと世代間をつなぐ永く続く連携を目指します。

➤ 企業とユースをつなぎ、北九州のまちづくりについて考える

「若者が楽しく働けることは、持続可能な社会へとつながる」という意見もあり、若者と北九州内の活発に SDGs に取り組むと予想される企業や団体をつなぎ、その活動を「知る」こととして、見学会やワークショップなどを実施します。またその先の「実践」へつながるよう企業等と協働していきます。また学生と社会人が共に活動できるコミュニティづくりを目指します。

4 協議会の推進体制と活動拠点のあり方

前アクションプラン実施期間において、専属コーディネーターを置き、5つのプロジェクトやさまざまな会員活動のもと、地域や市民・NPOとの連携も広がり、北九州市の「SDGs 未来都市」へ貢献してきました。

一方で、会員間のネットワーク作りの強化やプロジェクトの新しい枠組みを求める声も上がっています。

今後、協議会がESD推進のためにどうあるべきかを、会員の意見やESDカフェ、運営委員会などの意見に基づき、各ステークホルダーと連携して、具体的に下記の協議会の推進体制と活動拠点について進めていきます。

▶ 会員が主体となるチームおよびプロジェクト体制

会員による新たな活動を促進するため、会員参加型のチームおよびプロジェクト体制へ進化します（チーム体制の内容については、《1 会員による自主的な取り組みの促進》参照）。また、若い人を初めとした新たな人が、チームおよびプロジェクトに入りたくなるような魅力的な活動を展開します。

チームおよびプロジェクト体制では、企画・運営・報告を主体的に各チームおよびプロジェクトで実施、協議会事務局は予算・運営面でサポートし、中間支援として相談支援やコーディネートを行っていきます。新チームおよびプロジェクト制度開始のため、新たにルールを設定します。

▶ 開かれた、風通しの良い推進体制

会員の声を公平に聞き取り、会員の意図を反映した対応できる体制として、前アクションプランに基づき

- ・協議会全体の運営、活動を検討、実施する「運営委員会」
- ・協議会全体の重要事項について決定する「役員会」
- ・協議会会員の意見により最終決定を行う「総会」

について、継続し、さまざまなステークホルダーにより構成された運営委員会などでの議論を積極的に公開していきます。

また、幅広い年齢や環境にあるあらゆる会員に対して協議会の情報が効果的に伝わるよう、情報発信の方法を工夫して、発信を増やします。

▶ 会員の情報を共有、ネットワークづくり強化（再掲）

年1回発表会、会員の情報が分かり合えるプロフィール集などの作成、会員のイベントなどへ簡単に参加意向を伝えるシステム構築、気軽に会員同士が語り合える情報交流会など、プラットフォームの核として、会員間の相互交流の場づくりを行います。

▶ 持続可能な社会のための方策と拠点の検討

新型コロナウイルスの影響で、拠点である「まなびとESDステーション」の利用者は大幅に減少し、一方でオンラインによる交流などの発達が見られます。新しい生活様式が進むなか、今後は、ICTを活用したグローバル化に対応する持続可能な社会のための方策と拠点の検討を進めていきます。

11 成果指標および活動指標

成果指標：市民一人ひとりが、さまざまな社会課題を意識し、
日常生活の中で解決に向けた行動に取り組む

【重点的に取り組む事項ごとの活動指標】

1 会員による自主的な取り組みの促進

指標	現状(2020)	最終年(2025)
ESD 協議会に登録した団体・個人・組織数		
協議会会員、北九州まなびとESDステーション等が行うESD・SDGsに普及活動件数及び参加人数		
ESDに関する市民センター等における講座や行事数		

2 ステークホルダー同士の連携・地域外との交流

指標	現状(2020)	最終年(2025)
会員向け交流会参加者数		
市民センター等推進 参加者数		
SDGs未来都市アワード応募者数		
協議会等と国内外のESD活動団体（RCE等）との交流数		
国際交流参加者人数		
出前講座参加者数		

3 次世代の育成

指標	現状(2020)	最終年(2025)
国内外会議参加者人数		
ユース活動参加者数		
企業とユースの連携（参加者数）		

4 協議会の推進体制と活動拠点のあり方

指標	現状(2020)	最終年(2025)
新チームによる取り組み数（累計）		
ICTを活用した持続可能な社会のための方策と拠点の検討		